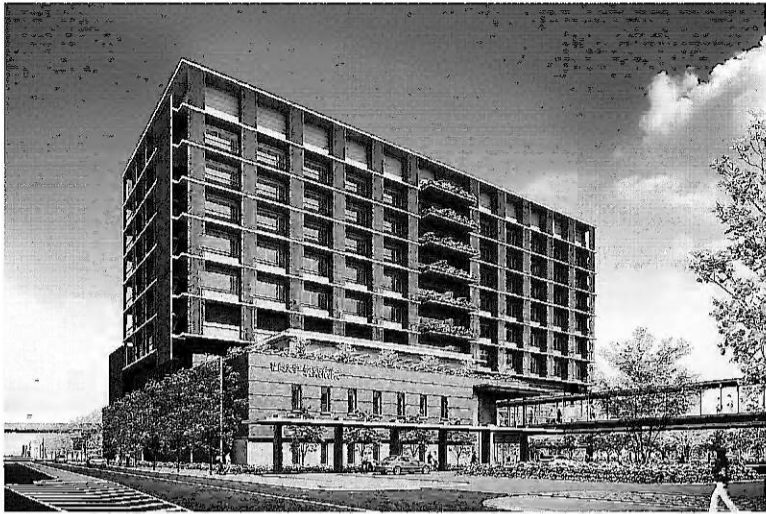


PR 企画・制作：読売新聞社広告局

脳卒中医療の最前線

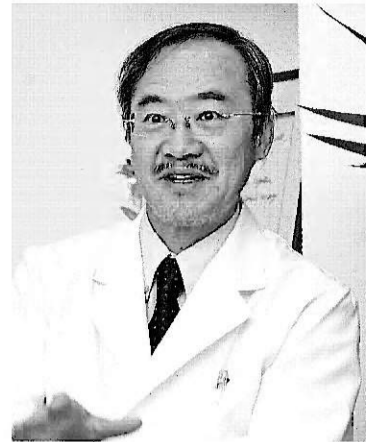
福岡大学筑紫病院新病院 脳卒中診療体制を強化して新築オープン



「まず、脳卒中とはどのような病気ですか。」

風川 「脳卒中」は、脳血管の障害が原因となって急激に生じる危険な病気の総称で、脳梗塞と脳出血、くも膜下出血に大別されます。脳梗塞は、脳に血液を供給する血管に血栓(血管の中で生じた血液の塊)が詰まり、その先の血管に血液が流れなくなり、脳組織が酸素不足に陥り壊死を起す病気です。

風川 「脳卒中」は、脳血管の障害が原因となって急激に生じる危険な病気の総称で、脳梗塞と脳出血、くも膜下出血に大別されます。脳梗塞は、脳に血液を供給する血管に血栓(血管の中で生じた血液の塊)が詰まり、その先の血管に血液が流れなくなり、脳組織が酸素不足に陥り壊死を起す病気です。



福岡大学筑紫病院脳神経外科教授・脳神経外科部長

風川 清氏

かぜかわ・きよし 1982年防衛医科大学校卒。国立循環器病センターを経て2004年福岡大学筑紫病院脳神経外科部長、08年教授。日本脳神経血管内治療学会指導医、日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳卒中中医学認定医。医学博士。

脳の血管が詰まったり、破れたりして脳の機能が損なわれる脳卒中。突然に発症して命にかかわり、対応が遅れると重い後遺症が残る。日本人が寝たきりになる最大の原因となっている。福岡大学筑紫病院新病院が、脳卒中診療体制を強化して新築オープンしたのにあわせ、最前線で医療に取り組む医師4氏に、脳卒中急性期の治療と地域連携について語り合ってもらった。

脳外科救急診療態勢が大幅に改善

「まず、脳卒中とはどのような病気ですか。」

風川 「脳卒中」は、脳血管の障害が原因となって急激に生じる危険な病気の総称で、脳梗塞と脳出血、くも膜下出血に大別されます。脳梗塞は、脳に血液を供給する血管に血栓(血管の中で生じた血液の塊)が詰まり、その先の血管に血液が流れなくなり、脳組織が酸素不足に陥り壊死を起す病気です。

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「発症したら一刻も早い治療開始が重要です。」

泉 脳は再生機能が乏しい器官で、一度壊れてしまうと再生は不可能と考えられています。脳梗塞に陥りかけた脳に対しては、閉塞した脳血管を早く再開通して被害を最小に抑える治療が近年開発され、その臨床効果が確認されています。それには薬剤を用いた血栓溶解療法の場合には発症から3時間以内、遅くとも4.5時間以内、特殊な管を閉塞している脳血管まで入れて血栓を吸引除去する脳血管内治療でも8時間以内の治療開始が必要です。このため、治療前の検査や治療準備のための時間を考えると、発症後一刻も早く診断・治療態勢の整った病院への到着が求められます。

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

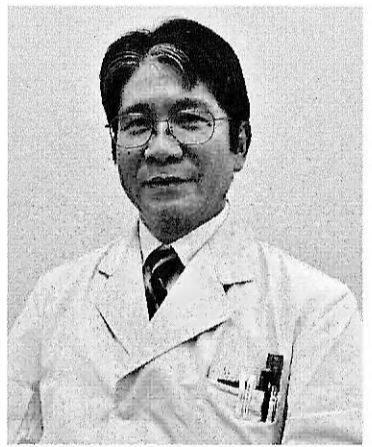
風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

ホットライン開設

地域医療機関に公開



福岡大学筑紫病院脳神経外科診療教授

相川 博氏

あいかわ・ひろし 1984年防衛医科大学校卒。2009年より現職。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳血管内治療学会脳血管内治療専門医、日本脳卒中中医学認定医。医学博士。

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

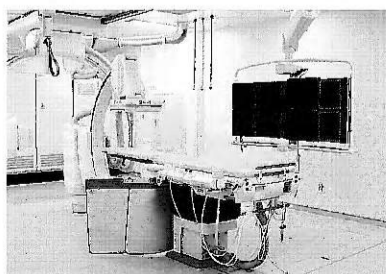
風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合



福岡大学筑紫病院新病院 筑紫病院本館北側に新築し5月7日開院。地上9階建て(免震構造)、病床数310床。脳卒中急性期治療、術後の安全管理体制強化のほか、小児病棟などを新設し、地域医療支援病院、救急告示病院、小児救急拠点病院としての機能を充実させた。

効率的で効果的な

リハビリテーションを



福岡大学筑紫病院脳神経外科臨床教授・こころ脳神経外科クリニック理事長

呉 義憲氏

ごう・よしのり 1989年福岡大学医学部卒。同大学病院脳神経外科、米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンター、福岡大学筑紫病院などを経て2004年に開院。日本脳神経外科学会脳神経外科専門医、日本脳卒中中医学認定医。医学博士。

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

「急性期脳卒中に対する取り組みについて教えてください。」

風川 福岡大学筑紫病院では2000年以降、脳卒中の急性期治療に特に力点を置いて診療を行ってきました。従来は手術に加え、低侵襲な脳血管内治療を積極的に取り入れて良好な成績を挙げてきたと自負しています。今年5月からは新病院が竣工し、5月7日から新病院での診療がスタートしました。新病院では脳卒中の診療体制を強化し、旧病院では脳卒中ケアユニット(SCU)4床を含む35床の混合

診療従事者間のスムーズな関係が重要

スムーズな関係が重要



大橋 こう脳神経外科・神経内科クリニック院長

泉 浩太郎氏

いずみ・こうたろう 1989年福岡大学医学部卒。鹿児島大学附属病院第3内科、鹿児島市立病院などをを経て2011年6月に開院。日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本内科学会認定医。

協賛：タカラ薬局